

令和2年度 障害者団体等ヒアリングの結果（まとめ）

項目	件名	内容
雇用・就労（作業所を含む）	収入源について	障害年金のほかに、工賃・家族の収入・仕送りが主なところですが、自立して生活していけるよう、工賃向上のための支援の強化・促進をお願いします。
団体活動支援	障害者団体の運営について	障害者団体の運営費の一部助成を市民社協が行っていますが、障害を持った当事者やその保護者たちが活動運営を継続していくのは困難です。障害者団体が継続的に安定した運営活動が維持できるよう助成金の在り方を含め、検討してください。
	ボランティア団体の活動支援について	ボランティア団体の活動支援について、現行の支援を継続してほしい。
	団体運営支援について	活動は15年目に入ります。障害者の人たちからなかなかお金を集めることができないため、運営費に苦労しています。市の事業として支援をしていただきたいです。
	ホーム再建支援	ホームの再建にあたって、物件の情報提供、補助金を出していただきたい。それに関して具体的な計画があれば助かります。
	ボランティア活動支援	毎年開催していただいている「失語症会話パートナー」の養成講座を、今後も継続していただきたい。パートナーのスキルアップのための研修の支援をお願いします。
	その他	災害など非常時の時、ボランティア団体全体として支援できるように、日ごろから団体同士の横つながりの連携を図れるような仕組みなど考えてほしい。
	団体支援について	現行の事業者及び利用者に対する補助や助成制度は概ね満足できる水準である。意欲を持った個人や団体が自由に活動できる環境が重要であり、今後ともそのような方向で計画を策定していただければありがたい。
福祉サービスの利用	知的障害者の単身生活をサポートする制度の活用・促進	グループホームだけでは足りませんので、一般の住宅で居宅支援や重度訪問介護、自立生活援助、地域定着支援等を利用したひとり暮らしを支える制度の活用を促進していただきたい。
	地域生活（知的障害者の重度訪問介護利用）	重度、軽度を問わずに障害を持った人たちが地域で暮らしていくために知的障害者にも重度訪問介護を利用できるようにしてください。入所施設、グループホームも必要ですが、知的障害者の中には重度や軽度を問わず、グループホームのような集団で過ごすことを好まない人やなじめない人が少なからずいます。そのような人たちも地域で暮らしていくために重度訪問介護を利用できるようにしてください。
	高齢障害者の介護保険サービスへの移行	上手に引き継いでサービスが受けられるよう、良い事例の提供と話し合いとしてほしい。難病障害者の場合、介護保険サービスではリハビリの送迎が入口まで来てもらえて、本人も家族もとても助かった。
	知的障害者の社会参加支援	移動支援については社会参加を図るための重要な支援に位置付けられる。現状では求めるニーズにサービスが不足していて十分に応えられていないため、充実するための対策を講じてほしい。

項目	件名	内容
成人期のデイサービス成人期余暇活動)	成人の居場所・活動プログラムの拡充	学校を卒業すると運動する機会が少なくなり、肥満、成人病につながります。運動中心の現在市営体育館でされている取り組みを月曜日だけでなく、増やしていただきたいです。また、他区で見られる青年学級のような運動以外のプログラムもお願いします。
	地域生活(社会人のデイサービス)	各方面からも多くの要望が上がっていますが、社会人のデイサービスをつくってください。学齢期に放課後等デイサービスを利用している児童の大半は社会人になってからも通所が終わった後の時間常や休日はデイサービスを必要としています。
地域生活支援施設(入所・G H)	グループホーム・住居について	入所施設が開設されましたが待機の方が多く、更なるグループホームの増設をお願いします。
	地域生活(住宅支援)	地域で親亡き後も当事者が暮らし続けられるように住宅支援の施策を充実させてください。 市内での土地確保は困難なため、大規模な入所施設を作るのは財政上も難しいと予想されます。現在の多くの空家(アパートや一軒家)を活用してグループホームを作ってください。バリアフリー対策ができない家屋については身体障害者の利用は難しいですが、知的障害者、精神障害者には利用できます。特に知的、精神障害者の当事者及び、その親の半数近くが将来は親と離れた暮らしを希望しています。
	長期滞在型のグループホームの設立	長期滞在型のグループホームの設立
	精神障害者の療養生活のための施設の開設	精神障害者の療養生活のための施設(特別養護老人ホーム)の開設を。親亡き後の心配は、精神障害者の3分の1と言われている、症状も障害も重篤な子の行く末です。また今後加齢により自立生活が困難になる場合も起こります。専門知識を持ったケアと財産管理などのサポートがある施設をぜひ作っていただきたい。
	障害者の居住について	本人や親が望むなら、お世話になっているグループホームで一生を終えられるようにしてください。
	障害者の居住について	歳をとって働けなくなった障害者たちが行く場がなくならないよう、知的障害者のみの老人ホームのような施設を作ってください。
	障害者の居住について	入所施設「わくらす」ができて、大変喜ばしいことではありますが、入所できる人数が非常に少ないです。市内には愛の手帳所持者が1000名を超えています。「わくらす」を中心に、障害者の老後を考え、対応できる施設やグループホーム等の建設を希望します。
	障害者の居住について	市内にグループホームを増設してください。知的障害者やその親の高齢化に伴って、今後は入居を希望する障害者が増えるので、通常のグループホームや日中サービス支援型のグループホーム(夜間の医療ケア対応を含む)を整備・充実してください。
	住まいについて	入所施設・グループホームの新設をお願いします。わくらす・桜堤のグループホーム以降の計画があるのか、どうか、、、など、親としては常に気になる問題です。
住まい	地域生活(住宅支援)	民間の不動産屋を通じて住まいを探すのは困難です。大家に対して市が住宅借り上げの募集を行う、または市が当事者と不動産屋の仲立ちに入る等の支援をおこなってください。

項目	件名	内容
障害児支援	インクルーシブ保育・教育の実現	住んでいる地域でどんな子も一緒に育つように。現状は「専門性」という言葉の下に分離する方策が多い。帰国子女の保護者の経験を聞いて生かしてほしい。
	発達障害手帳の取得	発達障害の青年で、精神障害の手帳を取得し、安心して生活できる状態になった人が増えている。保護者が、取得の手続きの際にとっても親切に対応してもらえたと喜んでいて。
医療との連携	保健医療について	いつまでも健康で社会のつながりを持ていけるように、予防的観点からの施策を進めていただきたいです。
	地域医療の充実について	武蔵野赤十字病院に医ケアや障害のある人が地域医療機関として利用できるようにしてほしい。(市内の開業医では診察を断られるケースがある)
	安心して暮らすために	重度の障害者や医ケアの必要な人が、住み慣れた地域で安心して暮らすには、医療との連携が不可欠です。「わくらす武蔵野」に夜勤看護師の配置をし、医療との連携をもっと強くしてほしい。
	医療体制	障害者が市内で断られることがなく、安心して診療・治療を受けられる医療システムを作ってください。
	保健・医療について	いつまでも健康で社会とのつながりを持ていけるように、予防的観点からの施策を進めていただきたいです。
防災対策	災害支援	大きな地震などでホームの場所が使えなくなった時、障害者だけで避難できる場所の充実と、周知を該当する運営側に徹底してほしい。(一般の方々と同じ避難場所ではどうしても神経を使うし、一般の方々にも理解の無い方がいるから。)
	災害について	個人の避難支援計画を作成してほしい。
	災害時対応	手話のわからない中途失聴者は増加すると予想されるため、情報はイラストや文字表示を付けて発信してほしい。
	災害支援	避難所にて、ほかの方々と一緒に過ごすことが、本人・家族にとって不安が大きいという声が多いです。あわせて、ヘルプカードの普及・周知をお願いします。
バリアフリー	バリアフリー(エレベーター等について)	駅やコミセンにエレベーターが設置されるなど進歩しているが、実際にはコミセンでは大型の車いすが乗れないなど不具合がある。現状と将来の展望をきちんと出してほしい。交通機関にも問題は多い。
	バリアフリー	車いすの人やおむつ利用者が安心して外出できるように整備してほしい。(ユニバーサルベッドや道路の改善)
	街づくり	公共トイレの自動洗浄機能。市内3駅のホームドアの設置。道路整備(エスコートライン、誘導ブロック、白線の整備、バス停留所での音声)
	まちづくりについて	車いすや自転車で通行しづらい歩道が多い。レンガ造りの目地の所(文化会館の前、緑町のサミットの前など)。本町の五日市街道、ベルシャ絨毯のお店の前、デコボコして車いす、自転車も通りにくい。

項目	件名	内容
バリアフリー	まちづくりについて	狭い道路で自転車が歩道を走るので危険。車道か、歩道では押してほしい。
	バリアフリー	歩道にレンガのようなものを敷くと目地のところでガタガタ振動して歩きにくいので改善してほしい。
	社会参加と環境	障害者にとって安全なまちづくり。
	バリアフリー	歩道と自転車が一緒に道路・道になっています。転倒することが多い病気ですから分けてほしい。
	バリアフリー	近隣のコミセンで学習会・交流会などを計画しても、入口が階段であるため使用できず、利用できない。
情報保障	聴覚障害者が参加しやすいまちづくり	講演会・講座・イベントなどに聴覚障害者が参加を申し込んだ時には、主催者の方から派遣を依頼してくれることを希望します。難聴者は要約・文字サポートが助かります。健康に関する講座など、続けての派遣も認めてほしい。派遣制度のことを福祉課から働きかけてほしいです。例えば、保健センターで開かれる講座など。私たちも社会に参加したいです。手帳を持っていない方にも派遣を認めてください。
	障害者向けサービス	失語症の方たちが地域で安心して生活できるように、聴覚障害者には手話通訳者が派遣されるのと同様に、失語症者にも必要な支援者の派遣が可能なシステムを作っていただきたい。
	生活支援	居宅での読み書きサービス。コミュニケーション支援としてのヘルパーの派遣。
	障害者に関する啓発	意思疎通支援事業の利用を周知(広報)してほしい。利用条件の障害者手帳保持者をなくし、誰でも難聴と診断されたら制度を利用できるようにしてほしい。
	情報の伝達について	障害によって伝わりにくい所がある(例えば、聴覚障害のある人は、マイクでの誘導は難しい。視覚障害のある人は、チラシや広報紙での周知は難しいなど)。障害者としてひとくくりでの対応では不十分だと思うので、想像力を働かせ、きめ細かく対応していただければありがたいと思う。
相談・情報	相談支援機関の充実	親の会でも相談等行っています。障害の種別、程度もありますので個々で細々行うことも大切ですが、場所を定期的に使用できる仕組みがあると、他市のように現在の親の会の方々が協力して交替で参加できるといいと思います。
	障害児(保護者)の相談支援の拡充について	「武蔵野市障害者福祉についての実態調査報告書」を見ると、「相談先が限られている」「相談先がわからない」との声が多い。ペアレントメンターは武蔵野市で発達障害のある子どもを育て、支援を受けてきた経験から、専門家とは違った立場で子どもの将来の見通しや地域の情報の提供に貢献できるものとする。今後の武蔵野市の相談支援の拡充に向けて、ペアレントメンターの活用をぜひご検討いただきたい。

項目	件名	内容
	情報・相談・手続き	どんなサービスが受けられるのか、それを冊子や窓口対応で探し出すのは健常者でも苦労するが、障害者となるとさらに大変だと聞く。また、各団体もチラシなどを置いて周知を図っても、なかなか伝えられない。コンシェルジュのような、そこへ行けば、希望するすべての情報が得られ、申し込みなどの対応ができる専門の窓口を、行きやすい場所に設置してほしい。
啓発事業	障害者に関する啓発	外見から障害がわかりにくい聴覚障害者のため「耳マーク」があるので、「ヘルプマーク」同様普及させてほしい。
	社会参加と環境	福祉についての市報等での周知。
人材育成・活用	社協・ボラセンの人材の活用	地域社協、ボラセンに集まってる意識の高い人たちに動いてもらいたい。現場の状況の把握、コミセンのエレベーター調査など。
	障害者向けサービス	コミュニケーションをとるのが苦手な失語症者にとって一人で出かけるには不安や不便がある場所（例えば病院、公的機関、銀行、買い物など）が多いです。2018年度から、東京都による「失語症者向け意思疎通支援者養成研修」が実施され、武蔵野市でもこれまでに4名修了者がでています。武蔵野市で養成された失語症会話パートナーと共に、支援者となりうる人材はそろっておりますのでご検討をお願いします。
	制度全般	IT化も進み、音訳活動も従来の録音製作からテキストデータでの対応と、活動の幅が広がり始めている。また利用者も視覚障害者、高齢者、発達障害者などと広がっている。そのため、活動内容熟知・利用者対応のために職員も短期間での移動を避け、専門職化をお願いしたい。これが更なる充実したサービス提供につながると考える。
成年後見制度	成年後見制度を安心して利用するための仕組みの構築	成年後見について本人・家族が理解し、相談を適切につなぐ仕組みを作してほしい。
	成年後見制度を安心して利用するための仕組みの構築	成年後見制度を利用した後に、本人・家族が相談できる場、成年後見人へのアドバイスや支援体制の構築、適切な報酬助成、後見人への障害理解のための研修の充実など図っていただきたい。
移動支援	移動支援	保健所、コミセン等に通うために身体の調子が悪い時、使用できる（往復）タクシーを用意してほしい。患者・家族も参加できるよう、配慮を望みます。
	その他	保健所室内用具にマイク、マット、卓球等の設備を望む。
		今回のコロナの対応で本人が感染しても大変ですが、親が感染した場合の子の預け先がありません。中国で親が感染し隔離され、障害のあるお子さんが亡くなってしまったニュースもありました。日本でも小さい子であれば親が感染した時、児童養護施設に預けられるよう取り図られましたが、障害がありますと小さい子でなくても、大人になっても、一人ではとても暮らせないので、今回のような緊急時には居宅介護や重度訪問介護の対象を拡大して対応していただきたいです。施設で預かっていただく方法もあるかと思いますが、障害者の施設は万が一の場合クラスターになってしまうと大変困るので、今回のような場合は避けて、居宅で支援をお願いしたいと思います。

項目	件名	内容
その他	新型コロナ	働いている場所(作業所)等は3蜜になる所でもある。休めることのできる子は週2回の通所の時期もあった。毎日通って仕事をする事で生活を築いていた子どもたちのリズムが乱れてしまいました。なかなか難しいことではありますが、働くことのできる環境はぜひ確保してほしいと改めて感じました。
		市内の通所及び作業所は建物の広さ構造上や利用者の状態などの理由で3蜜の状況です。ワクチン開発後は職員、利用者に優先的に予防接種をお願いします。
		法人武蔵野の1階のイベントホール(パールブーケ)を借りて練習してきましたが、30名くらい集まると3蜜そのものです。広い場所、学校のホールや体育館(ピアノ付き)を借りられるよう支援していただきたいです(収束するまで)。あるいは早くフェイスシールドを支給してほしいです(30人分)。
		マスクや消毒及び除菌に関するものが手に入りにくかったので、今後に関してこういう場合の計画を促進してほしい。
		入所施設やグループホームで当事者のために働いている職員、スタッフの皆さんに感謝しています。これからも長期戦になると思うので、引き続き支援が必要。
		在宅障害者は新型コロナウイルス感染症に対する支援がほぼない状況で、各家庭は大きな不安を感じ、また疲弊しています。今後第2波、第3波に備えて以下のことをお願いしたいです。①介護者又は本人が感染又は濃厚接触者となった場合の障害児者の対応方法を明確にし周知してほしい。②福祉サービス事業所(通所・ヘルパー等)の感染予防対策を徹底し、利用についてのガイドラインを明確に周知してほしい。(特に在宅者への厚いサポートをお願いしたい。希望者は日数制限なく通所できるようにしてほしい。仮設活動場所として場所(会議室や体育館)があれば3蜜は避けられます。)③入所施設やグループホームで感染者が出た場合の対策(市と事業者、医療の連携)マニュアル作成し、周知してほしい。
		決算期・総会時にコロナウィルスの感染が広がってしまい、役員会を開く場所、コピーを取る場所がなくなってしまい困っています。1人でもいいので印刷する場所が欲しいです。いつも障害者福祉センターを使わせていただき、なくなると本当に困ることを実感しています。本当にありがたかったと思ってます。
		主に図書館で音訳活動をしていますが、非常時の場合、どのような支援ができるか悩みます。現在はテキスト化も始めているので、PDF化した書類のテキスト化も希望をいただければお受けできると思います。非常時は、図書館という枠から外れて協力できたらと思うので、行政の方でも縦割りだけでなく、横つなりの連携も考えていくとよいと思います。
		知的障害者の多くは一人では生活できません。日常的に知的障害の重い人は身の回りのことすべてを介護者の手を借りなければできませんし、ある程度自立していても、ちょっとした手伝いや見守りなど、どこかで誰かの世話にならないと一人では生きていけないのです。そこで次の事項を希望します。①自分の状態を訴えたり、的確に伝えられない知的障害者に感染症の疑いが出た場合は直ちに検査をしてください。②障害者が感染した場合、病院に障害者対応の病室を設けてください。また、濃厚接触した場合の障害者対応の空き施設、ホテルなどの待機場所を確保してください。③障害の症状によっては、母親が付き添わねばならないことが多く考えられます。母親が子どもと一緒に行動することを認めてほしいです。(接触なしのサポートはできませんので)④障害者が感染症に罹患した場合の医療体制や対応等をわかりやすく示してください。

項目	件名	内容
		マスクで口形が読めずコミュニケーションに不自由な難聴者は多く存在します。「耳マーク」の普及をお願いします。「耳マーク」は全日本難聴者・中途失聴者団体連合会のHPにあります。

内容は原文のまま掲載しています